

5.7.27

清瀬ハ 後藤ヒビミ

「雀の子 そのけ そのけ 御馬が通る」(3.4年) 授業記録

1 教材解釈

- 雀のひなが そこにいる。馬が今から通らうとする場所にいる。まだ飛ぶことができない。巣から落ちてしまった。雀の子に、危険が迫っている。
馬は、身分が上の人の馬であり、今、いる場所から動かせない。
一茶の心は、「早く 早く！ ひかれてしまう！」と叫んでいた。

2 授業記録 (発言: 列紙)

- はじめのイメージを出し合っていると、「たれが『そのけ』と言っているのかで、イメージの違いが生じ、問題となる。

• たれが言っているのか

- ① 「一茶が 雀に言った」... 2人
- ② 「雀が馬に言った」... 1人

- 途中、②「御馬が雀に言った」が出現するが、「自分のことを御馬とは言わないと、自ら引き下げる。

- 関連問題を見つけているうちに、㊦が「変わる」と言い出す。

(V1.25-20~)

- T1 ㊦ちゃんが変わるというので、意見を聞いてみましょうか。
C1 たんで？
㊦ 「一茶さんが言った。」ところで、雀の子が「そのけ」と言った後に、(一茶)御馬が通ると続くと変だよね。
T2 雀の子が「そのけ」と言った後、一茶さんが「お馬が通るぞ」と続けるのは変だね (△ 助け舟出してしよう。)

(27:00~)

- ① 一茶が言った 3人
- ② 雀が言った 0人

- C3 ひかれるぞ
- T3 あー ひかれるぞ、ってイメージね。
- T4 では、問題出てきた子もいるので、どうぞ。
- S4 なぜ雀ではなく雀の子なのか。(T どう違うんだろう)
- C5 それに似てて、なぜ馬ではなくて御馬なの？
- C6 たしかに (T たしかに)
- T5 まだある？ これで終わり？
- C7 まだあって、昔だから分らないけど、「そのけが」なぜ「そのけ、なの？」
- C8 一語です。
<※ これは教える。>

(28:26~)

- T6 そのけは分かるけど...「その」気にならない？
- S9 そっでどこ？
- T7 例えば、雀がいて一茶さんがいて、馬がいるよね。
- C10 馬はいせん (T あっ馬はいない？ いないか...)
- T8 馬は遠いのか、近かっていう人もいるかもよ。

<※ 簡単な図を書くようにする。>

(V2.8:50~) (馬の近くに人がいる図... 2人、人がいない図1人)

- C11 ㊦ちゃんのたと (馬に人が付いていない図)「御馬が通る」ではなく、「御馬が来る」と思う。
- T9 ねえ、これ完全に对立してるよね。こういう場合は熟成しておいて、この問題やるか。「なぜ御馬なのか」「たれの馬なのか」

10:02~

- たれの馬なのか
- 一茶 ... 2人 (さこ)
- 人の馬 ... 1人 (め)
- 野生 ... 0人 → 切り

△ 急に話題を戻す。

△ お問題なのに感動がない。

△ 理由を聞かずにスルーしてしよう。

△ 「熟成」使いたずら 安易

? 3人しかいないので 多様な意見を 出したがるが、よいのか

Scanner Pro で作成

10-17~

T10 あれー野生いはいじん。最初から、いはいだろうから切ろうよって言てよ。野生の馬に「御」は付けなかね。

C13 「馬が通る」なら、分かるけど

T11 馬が通るとか、野生の馬って分かるような言葉ならね。じゃあ、これはどう？(他の2つ)理由ある？あんなでしよ。言ってみて。これだけ短い言葉から理由探すの大変だね。

め14 私は、「人の馬」で、自分のだたら、たぶん、ぼくの馬が通るとか言うと思うから。人の馬だったら、たれだれさんの馬って言うけど、人の馬だから御馬って。

T12 「御」が怖いねえ。

さ15 私は、御馬、人の馬なら御つけないで、御がついているから自分の馬だと思う。

T13 自分の馬のことは御馬って言うのね。

こ16 めらびちゃんのたと思う(変わった)

T14 おめらびちゃんのたと思うて、変わってきた？(図)の母の方を見る)じゃあ、理由聞かなきゃ。

C17 何で？

こ18 だって、雀の子って、誰かの知らない時には、「子」とか「御」とか、ずい言葉E...ずい？言葉が違うから。「雀の子」だったら、「馬」って言うて、なんか違う。

T15 「雀の子」だから、「お馬さん」、「お」を付けたって感じ？(㊦うなづく)「お馬さんよー」とか言たりするよね。そういう時にも「お」を使うんだよね。他の時にも「御」を使うんだけど知ってる？ ていねいな時、「お父さんよ」、「お母さんよ」、「おパパ」、「おママ」は言わんけど、「お菓子よ、はいどうぞ」とか、ていねいな時に使う「お」はあんなでしよ、他の時に

こ19 御馬さん

T16 馬に「御」つけたりするの <この後、目上の人に対する「御」に気づかせているとする。>

△共感するのではなく、きちんと知らせたかった。(よい意見だから?)

いつもは
○ 変わりにくい①が変化。

△共感や助け舟ではなく、再度自分の言葉で言わせてかった。

○ いつもは「そういうとこではない」と言いながら、混乱していくが、助け舟に乗れた。

(14-08)

T17 自分の物に「御鉛筆」、「御筆箱」とか言う？ 一茶の馬 0人
さ20 先生、変わります。(T おー、聞いてみて) 人の馬 3人

C21 何で？

さ22 だって、人の馬なら「御馬」って言うのは分かるけど、自分の馬に...自分の物とか動物とかに、ていねいとかはあんまり使わないと思うから。 <へチャムへ>

T18 私が言ったことに変えられた？ しまったなあ。そんな気がするんだよね。「御」って、大事な時に使わないよね、この馬ってとても大事な馬なんだよね。例えば、えらい人の馬とか、殿様の馬とか。みんな見てきたでしょ(都市体験の名古屋城武士) 武将の馬とか。そうすると、一茶さんの馬ではなく人の馬じゃないかなあ。どういう人？ 普通の人？ 一茶さんと同じような人？ (C 首ふる) 何か違って見えるよね。と、なると、イメージが変わってくるね。この図...

こ23 あっ！ (T 何？ もう終わりましたけど、続きは月曜日に(図を説明します) 一茶さんがここに居て、御馬に誰かが乗ってると思って (T、ほう、ここに何か乗ってる？ 変わった?) ここに、違う人が乗ってると思う。

め24 あ！ (T 何?)
...と思って、もし、大臣(T 大臣 江戸時代に大臣いたか分かんないけど) 大臣がいて、違う人が乗っていたら「御馬」って言うけど、違う人が乗ってなかつたら、普通に「馬」って呼ぶと思う。

T19 つまり、このところ(「御馬って何」の間)も解けてくるよね。違う人が乗ってるか分からないうけど、殿様の馬が走って逃げてきかせ、ヒーンと来たのも、でも、もしかしたらジカビカのね、きれいな馬が来たかもしれない...。さあ、何で雀の子でしょ。飛んでいけばいいじゃん。(C 気づいてない?) 一茶さんが、ここに居たとするでしょ。走って行って助けてあげばいいじゃん...走って行けなかつた理由があるかたいいのか

△「お父さん」とか使うとつみたのたが、親がいたので付度してしまっている。

△ 全にこの教師の物の言い方が気になる

△ T卒ではなく、目上の「御」があまい。

△ 例えは子どもに言わせたい。時間が気にならなほう。

△ 子どもたちに伊達語らせたかった

(18:25~)

C26 事故して足が負傷とか

T20 ねえ。みんなこれか文がないのに、初めての俳句 呪い
まじり。みんな最初とイメージ変わってきました？

・この後、次時で、なぜ「雀の子」と一茶は分かったのか、馬に乗ってる人からは「雀の子」と分らないのではないか。雀の子は、飛べない びなであつたろうの話し合いが少しあったが、あいまいに終了。

・その後 授業を見ていた あり先生の一言「あの句は侍が雀の子に『そこのけ』と言っている句だよ」の一言に反対していく。

V3 (0:05)

T21 校長先生にこう言われました。「あの授業は、馬に乗った侍が雀の子にそのどけと言っている句ですよ。」って、私は言葉と返せませんでした。私は校長先生の役をやります。みんなは違ふんでは。(こうく) ね、校長先生の考えとね、ひっくり返して、それくらい力を持って、この授業を終わらせましょう。どこかで校長先生と話す必要があるかもしれない、ぜひ力をつけて(め、うなづく)でも、もしかして 今、変わる人いるかもしれないからね。

(2:30~)

S27 私は、家来、侍とかは、馬に乗っていたとしても、雀の子は、小さいから、雀とか分かるわけないし、自分の馬のことは御馬、ア言わないと思う。

め28 いっしょで、雀の子とか走っていると小さいから、見えわけないし、ふっつ自分の馬だったら馬って言うと思うから、一茶さんだと思ふ。

こ29 つけたして、馬に乗った侍だったら、一茶さんがどにも(?)出てこないから、作者の意図がなくなると思ふ。

T22 つま、作者の思いがなくなる、ことね。(こうく)

(3:52~)

T23 ああ、なるほじね。でも校長先生がこう言うからね、「そこのけ、おれ様の馬が通るんだぞ」

こ30 雀かどうか、分らない。

T24 分らないじゃないの、走ってきた

め31 すく小さいから、雀の子、アいたら、子ども、子どもと小さいから、よく見えない

T25 うーん。雀の子、アてさ、雀の形している、誰から見ても雀の子アのか、それとも違うのか。雀の形してたら走ってきたも、ああ雀がおるアあ、雀の子もアあて分らないじゃないの?

こ32 普通の雀は、セーター(マスコットキャラクター)とか、カワセミとか、小さいものは分らない? (T どういうこと?)

め33 多分、こちゃんが言おうとしているのは、雀の子と、カワセミとかは、小さいから、どちらがどちらか分らない。

T26 小さいと分らない?

め34 すっと見れば、雀の子もア分かるけれど、走ってきたから

T27 あー じっと見れば雀の子ア分かるけど、走ってきたから分らないってことね。

こ35 歩いている馬か、走っている馬かは、分らない。

T28 ああ、どちらか。馬って言ったら、パカッパカッって速いよね、のっソリアはないよね。

こ36 こういふ馬もいる。(動作化、拍まる)

T29 どちらか分らないけど、押れてるは、押れてるよね。だから、みんなが言うのは、押れてるから、雀かどうか、はっきり分らないんじゃないから、ことね。

こ37 「そこのけ」だから、多分走っていると思ふ。

T30 「そこのけ! そこのけ!」だから走っていると思ふ。そこのけ! そこのけ!」って走っているじゃないの?

こ38 乗っていない気がする。(T侍が、そこのけ!」って言った?)
乗ってたら、引、はれば止まる。でも、馬が言ってるよう止められない。

< 音読 V3 27:27~ >

3

△「雀の子と判別できない」と言わせてくくとい。
△言い回しが、展開のじまをしている。

△こういう共感を子どもにさせたい。すぐ価値づけを教師がしてしまう。
△教師の解釈があいまい
△教師がまじりすぎ。

△教師が反応を取ってしまっている。
△何が言いたいか聞きとれず

Scanner Pro で作成